

海外安全対策情報第4四半期

1. 社会・治安情勢

リオデジャネイロ州全域で拳銃、機関銃、手榴弾等を使用した殺人、強盗等の凶悪事件が引き続き多発している。特に、リオデジャネイロ市及び郊外のスラム街(ファヴェーラ)では麻薬密売組織間の抗争が継続しているほか、治安当局による麻薬密売組織対策活動において度々銃撃戦が発生し、流れ弾による被害者が発生している。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 州政府は凶悪犯罪対策に注力しており、殺人、強盗の発生数は過去5年間ほぼ一貫して減少傾向であるが、依然として極めて高い発生率で推移している。人口当たりの発生率を日本と比較すると、殺人が約30倍、強盗は200倍以上である。また、窃盗、詐欺、傷害、強姦等の罪種は増加傾向であり、総じて治安が改善しているとは言い難い状況にある。

近年、リオを訪れる観光客の増加に伴い、観光客を標的とする強盗、窃盗の発生が大幅に増加している。

リオ州公安研究所による、本年1月の犯罪統計は以下のとおり。(括弧内は前年同月比の増減数)

リオ州 リオ市

殺人 391(+67) 112(-11)

強盗 8911(+508) 4446(-53)

(うち路上強盗)4339(+258) 2232(+35)

窃盗 15878(+732) 9314(+517)

強姦 509(+22) 153(-11)

(2) 邦人被害事案

(ア) ブラジルの実在する政治家を名乗る男から企業に対して架空の出資依頼。イベントに関する新聞記事をメールに添付し、「大臣から貴社の紹介を受けた」等と説明し、口座への入金を求めた。不審点に気付き、入金を拒否したため、被害を免れた。

(イ) 企業出張者がカードスキミング被害。ガレオン国際空港もしくは南部地区のガソリンスタンドに設置されたATMのいずれかを使用した際にカード情報を盗まれたと見られる。

(ウ) 夜間、旅行者がコパカバーナ地区のアトランチカ大通り歩道で友人と会話している間に、路上に置いていたバッグを盗まれた。友人も犯行に気付かなかった。

(エ) 旅行者が路線バスを利用した際、隣の座席に置いておいたバッグから携帯電話を盗まれた。

(オ) イパネマのジェネラル・オゾリオ公園で日曜に開かれるピッピー市を訪れた際、気付かない間に背負っていたバッグの中の物を盗まれた。

(カ) 出張者がガレオン国際空港にて見知らぬ人物に話しかけられ、応答している間に足下に置いてあったバッグを盗まれた。

(キ) 旅行者が午前11時頃にサンタテレザ地区のバス停でバスに乗車しようとしたところ、バスから降りてきた少年が旅行者のバッグを素早くひたたくり逃走した。

(ク) 旅行者が夜間、単身でコパカバーナ地区バラタ・ヒベイロ通りを徒歩で移動中、15歳前後の少年グループに囲まれ、カメラと財布を強奪された。

(ケ) 旅行者がサンパウロからの長距離バスでリオのバスターミナルに到着し、下車したところ、少年グループが叫びながら接近して被害者を畏怖させた上でバッグから携帯電話を強奪して立ち去った。

(3) 邦人以外の被害事案(在留邦人にとって有益な事例を紹介)

(ア) 3月30日午前0時頃、コパカバーナ地区に滞在中の外国人学生カップルが流しの乗り合いバンに乗車したところ、目的に向かう道中で乗り合いバンの運転手を含む車内の男4名が、自分たちが強盗である旨を告げ、前記カップル以外の乗客に下車するよう命じた。車内に残されたカップルに対し、強盗団は男子学生の手到手錠をはめた上で工具で顔面を殴りつけ、女学生を代わる代わる強姦した。強盗団はカップル

が所持していたクレジットカードから残額がなくなるまでキャッシングをして、監禁開始から6時間後にリオ市郊外に被害者2名を放置して立ち去った。犯人4名は逮捕されたが、犯人の画像が報道されたことにより相次いで同様の被害者が名乗りを上げており、相当数の余罪があると見られる。犯人のうち1名は12歳の少年であった。

3. テロ・爆弾事件発生状況

事件の発生は認知していない。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害は確認されていない。

本年1月中にリオ州内で短時間誘拐8件、脅迫7298件が発生している。

5. スラム街対策状況

(1)1月16日(水)、リオ市北部のジャカレジーニョ地区及びマンギーニョス地区のスラム街において、UPP(軍警察治安維持部隊)が設置された。同UPPに従事する人員は軍警察官合計1131名で、同地区の入り組んだ狭い道を効果的にパトロールするために32台のオートバイを配置し、機動隊で訓練を受けた警察官が巡回する点が特徴である。リオ州のUPPは合計30ヶ所となった。

(2)1月24日未明、ガレオン国際空港近隣に所在するスラム街モホ・ド・デンデにおいて軍警察特殊部隊が犯罪組織掃討作戦を実施し、銃撃戦で犯人2名のほか、19歳の女性が流れ弾を受けて死亡した。

作戦の結果、警察は犯人2名を逮捕、拳銃2丁、手榴弾1個、大麻109束、コカイン274パックを押収した。

(3)3月3日未明より、リオ市北部沿岸地区のスラム街「コンプレクソ・ド・カジュ」と「バヘイラ・ド・ヴァスコ」において犯罪組織掃討作戦が行われた。ブラジル海軍の狙撃手200名、リオ州軍警察機動隊、特殊部隊合計1400名、リオ州文民警察200名、ブラジル連邦警察150名から構成される合同部隊がスラム街に突入し、犯罪組織に抵抗する隙を与えず、実質25分程度で終了した。

6. 日本企業の安全に関わる諸問題

特になし。